

「第14回病理学夏の学校」開催報告

第14回病理学夏の学校 世話人 林 一彦

鳥取大学 医学部 分子病理学

この度の病理学夏の学校は鳥取県米子市の皆生グランドホテル天水を会場として、平成25年8月18日（日）～19日（月）の2日間の日程で開催致しました。今回は中国四国地区の大学に加えて、広島大学の安井教授のお取り計らいにより、奈良県立医科大学から6名の学生、ならびに分子病理学講座の國安弘基教授にご参加を頂きました。参加者は教員・病理医と併せて総勢120名となり、前回・前々回に引き続き過去最多人数を更新しました。お暑い中遠方よりご参加下さいました学生さん、教員・病院病理医の先生の皆様に、心より御礼申し上げます。また多数の先生方より有難い差入れを頂きましたこと、併せて深謝申し上げます。

今回の課題はCPC形式による剖検症例の検討に加えて、自己紹介発表として各県の名所・名物を紹介して頂くというものに致しました。発表は総じて非常にレベルが高く、自己紹介では動画や音声を交えた極めて印象的なプレゼンテーションをされる大学もあり、学生の皆さんの技倆が遺憾なく発揮されていたと感じました。また症例検討はアンケート結果にもある通り、やや難しめの症例であったと思いますが、どの大学もそれを乗り越えて、非常に詳細かつ論理的な発表をされていました。学生の皆さんには勿論のこと、指導に当たって頂いた先生方にも篤く感謝を申し上げる次第です。

特別講演としましては、藤田保健衛生大学の堤寛教授より「患者さんに顔のみえる病理医からのメッセージ」というタイトルでお話を頂きました。多くの悩みや葛藤を抱えた大勢の患者さんに対して、病理医という立場で直接接して来られたご経験をはじめ、他の人がやっていないことに挑戦することで、様々な新発見や、組織（学会）の改革を成し遂げられてきたことなど、数多くの話題をご披露頂きました。時間の都合により途中で中断をお願いしてしまった点は非常に申し訳なく存じますが、大変刺激のあるお話を拝聴することができました。

また、特別講演の他に「若手病理医の現況」という題目で鳥取大学器官病理学の野坂加苗先生、香川労災病院の守都敏晃先生にお話を頂き、愛娘を抱えての女性病理医の日々の生活や、臨床医と密接なコミュニケーションを取りつつ診療に当たっている臨床病理医の日常を披露して頂きました。両人のお話は、参加学生の職業選択において重要な示唆を与えたのではないかと思います。さらに、2日目には高知赤十字病院の黒田直人先生より「皆が楽しく働くための職場環境構築の工夫～病院病理医の奮戦記～」との題目で、病理診断科における上司と部下の円滑なコミュニケーションの秘訣について学術的な論点からお話を頂き、会場は大きな笑いに包まれました。

今回は堤先生の監修のもと、「検体の所有権」というテーマでグループワークも行いました。ディスカッションの時間が非常に短く、十分な議論ができなかったかと思いますが、2日目の発表では予想以上に完成度の高い議論の成果を披露して頂き、我々教員も大いに勉強になりました。ただ、アンケートでも特にグループワークについて、討論時間の長さなどについてのお叱りが多く、今後の課題になるかと考えています。

病理学夏の学校のもう一つの大きな目的として、他大学の学生との交流や教員、病理医との親睦を深めるということが挙げられます。今回は夕食（意見交換会）に続いて、皆生温泉旅館組合による打上げ花火や手持ち花火、そして2次会・3次会と、多くの学生・教員の皆様にご参加頂き大いに盛り上がり

ました。特に2次会では日本病理医フィルの堤先生ならびに愛媛大学の宮崎先生、川崎医科大学の藤原先生に、大学院生や学生さんを交えたアンサンブルを披露頂き、多様なジャンルの音楽に会場はしばし酔いしれました。

会の最後には教官アンケートにより優秀発表を行った大学・グループへの表彰が行われ、最優秀発表賞に広島大学、準優秀発表賞に愛媛大学、優秀自己紹介発表賞に川崎医科大学、グループワーク優秀賞にはAグループがそれぞれ選ばれました。さらに、特別参加賞として奈良医科大学、Most impressive studentとして広島大学の石川君に賞を授与させて頂きました。副賞は教室内で試食会などを行って選んだものですので、満足してご賞味頂けるものと考えております。

なお今回の会では広島大学の安井教授より、今後の病理学夏の学校の企画運営について、過去に学生として参加したOB・OGが主体となって行うというのはいかがでしょうか、との提言がなされました。本会にはリピーター学生の方も多く、学生目線でのアイデアや要望・改善点などは多々あると思われます。一朝一夕には行かないかも知れませんが、今後の検討課題として、当番校の先生方に一考して頂きたいと存じます。

アンケートでは回答頂いた参加学生のうち、13%が「将来是非病理を専攻したい」と考え、29%が「数年くらいは病理をしてみたい」と考えているという結果が得られました。病理医不足が叫ばれて久しい昨今ですが、病理に対して潜在的な関心を持っている学生は少なくないものと思われます。病理学夏の学校の運営・継続にはなかなか苦勞が伴いますが、今回はこのような活動を通じて、将来の医療を担う若手病理医の育成・教育を行っていくことの重要性を認識する、貴重な機会となりました。

最後に、今回利用させて頂いた皆生グランドホテル天水のスタッフの皆様、バーチャルスライドのサーバ管理を快く請け負って頂いた鳥取大学医学部附属病院がんセンターのスタッフの皆様ならびに前センター長 紀川純三先生、円滑な会の進行にご協力頂きました座長の先生方、そしてこの会にご参加頂き、大いに盛り上げてくださった皆様に、この場を借りまして心より御礼を申し上げます。

第14回病理学夏の学校 プログラム

1日目：8/18（日）

13:00-13:30	受付
13:30-13:45	開会挨拶・オリエンテーション
13:45-14:25	課題発表1 <座長：高知赤十字病院病理診断科部 黒田 直人 先生> 「原疾患の解説」 1. 川崎医科大学 (13:45-14:05) 2. 奈良県立医科大学 (14:05-14:25)
14:25-15:05	課題発表2 <座長：鳥取大学器官病理学 塩見 達志 先生> 「皮疹の原因」 1. 香川大学 (14:25-14:45) 2. 島根大学 (14:45-15:05)

15:05-15:45	課題発表 3 「肝不全の原因」 1. 鳥取大学 (15:05-15:25) 2. 高知大学 (15:25-15:45)	《座長：広島大学分子病理学研究室 仙谷 和弘 先生》
15:45-16:00	休憩 (Coffee break)	
16:00-16:30	講演 若手病理医の現況 1. 鳥取大学医学部器官病理学 野坂 加苗 先生 2. 香川労災病院病理科 守都 敏晃 先生	《座長：岡山大学病理学(免疫病理) 伏見 聡一郎 先生》
16:30-17:30	特別講演 藤田保健衛生大学第一病理学 堤 寛 先生 「患者さんに顔の見える病理医からのメッセージ」	《座長：鳥取大学分子病理学 林 一彦》
17:30-17:45	写真撮影、休憩	
17:45-18:45	グループワーク 「検体の所有権」	《司会：鳥取大学分子病理学 桑本 聡史》
18:45-19:15	チェックイン	
19:15-21:00	夕食 (意見交換会)	
21:00-21:30	花火大会 (皆生温泉旅館協会)	
21:30-	懇親会	

2日目：8/19 (月)

7:00-8:35	朝食、チェックアウト、研修会場へ移動	
8:40-9:20	課題発表 4 「持続する下痢の原因」 1. 広島大学 (8:40-9:00) 2. 愛媛大学 (9:00-9:20)	《座長：香川大学腫瘍病理学 横平 政直 先生》
9:20-10:00	課題発表 5 「骨髓所見」 1. 岡山大学 (9:20-9:40) 2. 山口大学 (9:40-10:00)	《座長：高知大学病理学講座 倉林 睦 先生》
10:00-10:15	提示症例の解説	
10:15-10:20	休憩	
10:20-10:35	講演 高知赤十字病院病理診断科部 黒田直人先生 「皆が楽しく働くための職場環境構築の工夫～病院病理医の奮戦記～」	《座長：島根大学器官病理学 丸山 理留敬 先生》
10:35-11:25	グループワーク発表	《座長：愛媛大学ゲノム病理学 宮崎 龍彦 先生》
11:25-11:35	休憩、教官アンケート	
11:35-11:50	クロージングセッション、大学表彰、ポストアンケート	
11:50-12:00	閉会挨拶	

